

Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成31年 1月～令和元年 6月期
- 今期 令和元年 7月～令和元年12月期
- 来期 令和2年 1月～令和2年 6月期

1. 景況天気図

【業況判断(全体)】

	R1年7～9月期(実績)	R1年10～12月期(実績)	R2年1～3月期(見込み)	R2年4～6月期(見通し)
全体				
BSI	(▲15.0)	(▲22.2)	(▲36.5)	(▲33.1)

【従業者規模別】

	R1年7～9月期(実績)	R1年10～12月期(実績)	R2年1～3月期(見込み)	R2年4～6月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲31.1)	(▲39.7)	(▲55.3)	(▲46.7)
5人～19人				
BSI	(▲9.5)	(▲20.0)	(▲33.5)	(▲31.4)
20人以上				
BSI	(▲6.3)	(▲10.2)	(▲24.1)	(▲23.8)

【業種別】

	R1年7～9月期(実績)	R1年10～12月期(実績)	R2年1～3月期(見込み)	R2年4～6月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲25.3)	(▲25.8)	(▲44.6)	(▲39.8)
非製造業計				
BSI	(▲12.0)	(▲21.2)	(▲34.1)	(▲31.1)
建設業				
BSI	(0.0)	(1.2)	(▲19.6)	(▲19.7)
運輸・通信業				
BSI	(▲9.7)	(▲20.2)	(▲35.9)	(▲29.8)
卸・小売業				
BSI	(▲14.9)	(▲46.7)	(▲52.4)	(▲47.7)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲37.9)	(▲48.4)	(▲53.7)	(▲48.4)
サービス業				
BSI	(▲9.0)	(▲11.8)	(▲23.6)	(▲22.2)

【凡例】

天気マーク					
BSI水準	(20.1～)	(0.1～20.0)	(0.0～▲20.0)	(▲20.1～▲40.0)	(▲40.1～)
矢印マーク					
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少			

2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」については、令和元年7～9月期は平成31年4月～令和元年6月期から改善したが、続く令和元年10～12月期は悪化した。足元の令和2年1～3月期は令和元年10～12月期からさらに悪化する見込みであるが、先行きの令和2年4～6月期は同1～3月期からわずかながら改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも上昇したほか、「資金繰り」はほぼ同水準で推移した。在庫では「製・商品在庫」は過剰幅が縮小したものの、「原材料在庫」は拡大した。価格では「仕入価格」はやや上昇したが、「販売価格」はほぼ同水準で推移した。雇用では「所定外労働時間」はほぼ同水準で推移したが、「1人当たり人件費」はやや低下した。

経営上の問題については、「人材不足」の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」、「労働力不足」、「仕入価格の上昇」と続いている。

業界の動向としては、五輪開催にともなう受注増加などから業況が改善したとの声がある一方、人手不足による受注への対応力の低下や人件費の増加などによる採算悪化、暖冬による売上減少、消費税率引き上げ後の業況悪化を懸念する声が多数みられた。

3. 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表

<p>1. 業況 P. 12～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲15.0と、平成31年4月～令和元年6月期の▲24.2から9.2ポイント改善した。続く令和元年10～12月期は▲22.2と、同7～9月期から7.2ポイント悪化した。 足元の令和2年1～3月期は▲36.5となり、令和元年10～12月期からさらに14.3ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲33.1と、同1～3月期から3.4ポイント改善する見通しとなっている。
<p>2. 生産・売上 P. 20～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲13.1と、前期（▲15.8）から2.7ポイント上昇した。来期は▲25.3と、今期から12.2ポイント低下する見込みとなっている。
<p>3. 受注 （製造業・建設業のみ） P. 25～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲10.0と、前期（▲21.2）から11.2ポイント上昇した。来期は▲30.1と、今期から20.1ポイント低下する見込みとなっている。
<p>4. 出荷 （製造業のみ） P. 28～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲17.2と、前期（▲25.2）から8.0ポイント上昇した。来期は▲30.6と、今期から13.4ポイント低下する見込みとなっている。 今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は▲16.1と、前期（▲25.8）から9.7ポイント上昇した。来期は▲31.7と、今期から15.6ポイント低下する見込みとなっている。
<p>5. 在庫水準 （原材料在庫は製造業のみ） P. 33～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.1と、前期（3.1）から2.0ポイント低下した。来期は0.4と、今期から0.7ポイント低下し、適正化がさらに進む見込みとなっている。 今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は4.8と、前期（1.6）から3.2ポイント上昇した。来期は0.5と、今期から4.3ポイント低下し、適正化が進む見込みとなっている。
<p>6. 価格 P. 41～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は31.9と、前期（29.2）から2.7ポイント上昇した。来期は28.7と、今期から3.2ポイント低下する見込みとなっている。 今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は4.9と、前期（5.2）とほぼ同水準で推移した。来期は2.3と、今期から2.6ポイント低下する見込みとなっている。
<p>7. 資金繰り P. 51～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲13.8と、前期（▲13.7）とほぼ同水準で推移した。来期は▲17.2と、今期から3.4ポイント悪化する見込みとなっている。

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の雇用BSI（正社員の数）（「増加」－「減少」）は▲0.2と、平成30年度（▲2.4）から2.2ポイント上昇する見込みとなっている。令和2年度は5.4と、令和元年度から5.6ポイント上昇し、5年度ぶりにマイナスからプラスに転じる見通しとなっている。 令和元年度の臨時・パート社員等の雇用BSI（「増加」－「減少」）は0.6と、平成30年度（▲0.8）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。令和2年度は▲4.1と、令和元年度から3.5ポイント低下する見通しとなっている。 今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲11.9と、前期（▲12.0）とほぼ同水準で推移した。来期は▲14.4と、今期から2.5ポイント低下する見込みとなっている。 今期の1人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は24.0と、前期（25.4）から1.4ポイント低下した。来期は24.3と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲2.1と、前期（▲7.4）から5.3ポイント低下した。来期は▲4.3と、今期から2.2ポイント低下する見込みとなっている。 今期の営業用設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲3.5と、前期（▲3.9）とほぼ同水準で推移した。来期は▲3.3と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は30.8%と、平成30年度の実績（24.7%）から6.1ポイント上昇する見込みとなっている。令和2年度（計画）は21.7%と、令和元年度から9.1ポイント低下する見通しとなっている。 令和元年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が58.4%と最も高く、次いで「店舗・工場等の新設・増改築」（20.8%）、「生産能力増大の為の機械・設備導入」（20.4%）などとなっている。
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営上の問題（複数回答）については、全体では「人材不足」（48.6%）の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」（33.2%）、「労働力不足」（31.3%）、「仕入価格の上昇」（31.0%）と続いている。

<p>4. 業種別 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは▲25.3と、平成31年4月～令和元年6月期（▲30.5）から5.2ポイント改善し、続く令和元年10～12月期は▲25.8と、ほぼ同水準で推移した。足元の令和2年1～3月期は▲44.6と、令和元年10～12月期から18.8ポイント大幅に悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲39.8と、同1～3月期から4.8ポイント改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲22.5と、前期（▲27.9）から5.4ポイント上昇した。来期は▲32.8と、10.3ポイント低下する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲19.3と、前期（▲27.4）から8.1ポイント上昇した。来期は▲31.7と、12.4ポイント低下する見込みとなっている。 今期の製・商品在庫BSIは3.3と、前期（▲1.0）から4.3ポイント上昇し、過剰超となった。来期は1.6と、1.7ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは41.9と、前期（36.9）から5.0ポイント上昇した。一方、販売価格BSIは0.0と、前期（1.6）からわずかに低下した。 今期の資金繰りBSIは▲21.5と、前期（▲21.0）からほぼ同水準で推移した。来期は▲28.0と、6.5ポイント低下する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は33.5%と、前年度（31.8%）から1.7ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の上昇」（46.8%）と「生産・受注・売上げ不振」（46.2%）の割合が高く、続いて「人材不足」（40.3%）となっている。

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは▲12.0と、平成31年4月～令和元年6月期（▲22.4）から10.4ポイント改善したものの、続く令和元年10～12月期は▲21.2と、令和元年7～9月期から9.2ポイント悪化した。足元の令和2年1～3月期は▲34.1と、令和元年10～12月期からさらに12.9ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲31.1と、同1～3月期から3.0ポイント改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲10.3と、前期（▲12.5）から2.2ポイント上昇した。来期は▲23.0と、12.7ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは28.9と、前期（27.1）から1.8ポイント上昇した。一方、販売価格BSIは6.4と、前期（6.3）とほぼ同水準で推移した。 今期の資金繰りBSIは▲11.5と、前期（▲11.7）とほぼ同水準で推移した。来期は▲14.0と、悪化する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は30.0%と、前年度（22.3%）から7.7ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（51.0%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（34.9%）、「人件費の増加」（29.7%）と続いている。
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは0.0と、平成31年4月～令和元年6月期（▲17.0）から17.0ポイント改善し、続く令和元年10～12月期は1.2と、改善が続いた。足元の令和2年1～3月期は▲19.6と、令和元年10～12月期から20.8ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲19.7と、同1～3月期とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲1.8と、前期（▲11.3）から9.5ポイント上昇した。来期は▲23.1と、今期から大幅に低下する見込みとなっている。 今期の受注BSIは0.0と、前期（▲14.7）から14.7ポイント低下した。来期は▲28.3と、今期から大幅に低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは33.6と、前期（27.1）から6.5ポイント上昇した。また、販売価格BSIは9.2と、前期（0.0）から9.2ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲3.5と、前期（▲11.8）から8.3ポイント改善した。来期は▲11.0と、7.5ポイント悪化する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は32.7%と、前年度（21.9%）から10.8ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（64.7%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（52.6%）、「生産・受注・売上げ不振」（32.9%）と続いている。
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは▲9.7と、平成31年4月～令和元年6月期（▲16.7）から7.0ポイント改善したものの、続く令和元年10～12月期は▲20.2と、令和元年7～9月期から10.5ポイント悪化した。足元の令和2年1～3月期は▲35.9と、令和元年10～12月期からさらに15.7ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲29.8と、同1～3月期から6.1ポイント改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは0.0と、前期（▲3.2）から3.2ポイント上昇した。来期は▲13.1と、13.1ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは17.5と、前期（26.2）から8.7ポイント低下した。一方、販売価格BSIは6.1と、前期（7.1）とほぼ同水準で推移した。 今期の資金繰りBSIは▲8.8と、前期（▲7.1）から1.7ポイント悪化した。来期は▲12.3と、さらに悪化する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は36.3%と、前年度（29.3%）から7.0ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（48.2%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（36.0%）、「人件費の増加」（26.3%）と続いている。

卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは▲14.9と、平成31年4月～令和元年6月期（▲35.0）から20.1ポイント改善したものの、続く令和元年10～12月期は▲46.7と、令和元年7～9月期から31.8ポイント大幅に悪化した。足元の令和2年1～3月期は▲52.4と、令和元年10～12月期からさらに5.7ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲47.7と、同1～3月期から4.7ポイント改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲25.3と、前期（▲19.0）から6.3ポイント低下した。来期は▲31.8と、さらに6.5ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは27.1と、前期（30.1）から3.0ポイント低下した。また、販売価格BSIは0.9と、前期（13.5）から12.6ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲12.2と、前期（▲13.5）から1.3ポイント改善した。来期は▲14.0と、やや悪化する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は23.2%と、前年度（19.6%）から3.6ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（44.9%）の割合が最も高く、以下「競争の激化」（36.4%）、「生産・受注・売上げ不振」（35.5%）と続いている。
非製造業 飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは▲37.9と、平成31年4月～令和元年6月期（▲31.6）から6.3ポイント悪化し、続く令和元年10～12月期は▲48.4と、令和元年7～9月期から10.5ポイント悪化した。足元の令和2年1～3月期は▲53.7と、令和元年10～12月期からさらに5.3ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲48.4と、同1～3月期から5.3ポイント改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲29.4と、前期（▲20.0）から9.4ポイント低下した。来期は▲32.6と、さらに3.2ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは50.5と、前期（49.4）から1.1ポイント上昇した。一方、販売価格BSIは2.1と、前期（10.5）から8.4ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲30.5と、前期（▲24.2）から6.3ポイント悪化した。来期は▲26.3と、4.2ポイント改善する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は20.8%と、前年度（10.0%）から10.8ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の情報」（51.6%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（43.2%）、「人件費の増加」（34.7%）と続いている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7～9月期の業況判断BSIは▲9.0と、平成31年4月～令和元年6月期（▲17.9）から8.9ポイント改善したものの、続く令和元年10～12月期は▲11.8と、令和元年7～9月期から2.8ポイント悪化した。足元の令和2年1～3月期は▲23.6と、令和元年10～12月期からさらに11.8ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和2年4～6月期は▲22.2と、同1～3月期から1.4ポイント改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲4.9と、前期（▲11.8）から6.9ポイント上昇した。来期は▲18.0と、13.1ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは19.4と、前期（12.4）から7.0ポイント上昇した。また、販売価格BSIは9.7と、前期（4.3）から5.4ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲10.4と、前期（▲6.2）から4.2ポイント悪化した。来期は▲11.1と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 令和元年度における設備投資の実施事業所割合は32.3%と、前年度（26.6%）から5.7ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（46.5%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（29.9%）、「人件費の増加」（27.8%）と続いている。